



**FRONX**

**2025年3月期 第1四半期決算説明会**

2024年8月6日  
スズキ株式会社

(参考) 表紙画像：コンパクトSUV 新型「フロンクス」

- ・ 力強さと流麗さを際立たせたクーペスタイルに、取り回しの良さと快適な室内空間を兼ね備えた、新ジャンルのコンパクトSUV
- ・ 2023年4月にインドでの販売を皮切りに、スズキのグローバルカーとして、中南米、中近東、アフリカなどでも好評
- ・ 2024年秋ごろ、日本国内での発売を予定

当社は2025年3月期 第1四半期報告から、国際財務報告基準（IFRS）を任意適用いたしました。  
そのため、本ページ以降は前期・当期ともにIFRSに基づき作成しております。

### 2025年3月期 第1四半期決算

- 当期実績
  - ・ 為替影響に加え、売上構成変化等が改善し、増収増益
  - ・ 研究開発費や固定費は、期初計画通り増加

### 2025年3月期 通期予想

- 通期予想
  - ・ 前回発表を据置き
  - ・ 売上収益 5兆6,000億円、営業利益4,800億円を見込む
  - ・ 為替動向の変化など、いまだ不透明な経営環境は継続している
  - ・ 成長投資のための研究開発費や固定費等の増加をカバーできるよう稼ぐ力を上げていく

© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

2

2025年3月期 第1四半期決算のサマリーをご説明いたします。

なお、当社は当期よりIFRSを適用いたしました。

本ページ以降は前期・当期ともにIFRSに基づいて作成しております。

当期は、為替影響に加え、売上構成変化等が改善し、増収増益となりました。

通期予想につきましては、前回予想を据置き、売上収益は5兆6,000億円、営業利益は4,800億円を見込みます。

成長投資のための研究開発費や固定費等の増加をカバーできるよう稼ぐ力を上げていきます。

サマリー ..... 2

2025年3月期第1四半期決算 ..... 4～12

    総括 ..... 4

    営業利益増減要因 ..... 5

    事業別セグメント ..... 6

    四輪・二輪台数実績 ..... 7～12

通期業績予想 ..... 13～16

    総括 ..... 13

    営業利益増減要因 ..... 14

    四輪・二輪台数情報 ..... 15～16

技術戦略説明会 ..... 17

補足資料 ..... 18～28

(億円)		当第1四半期 ('24/4-6)	前年同期 ( '23/4-6)	増 減		補足※1
					増減率	
連結 業績	売上収益	14,576	12,044	+ 2,533	+ 21.0%	4期連続増収
	営業利益 (利益率)	1,576 (10.8%)	980 (8.1%)	+ 596	+ 60.8%	4期連続増益
	税引前利益 (利益率)	1,895 (13.0%)	1,255 (10.4%)	+ 640	+ 51.0%	2期連続増益
	四半期純利益※2 (利益率)	1,142 (7.8%)	724 (6.0%)	+ 419	+ 57.9%	2期連続増益
為替 レート	米ドル	156円	137円	+ 18円	+ 13.4%	
	ユーロ	168円	150円	+ 18円	+ 12.2%	
	インドルピー	1.88円	1.68円	+ 0.20円	+ 11.9%	
世界 販売	四輪車	784千台	732千台	+ 52千台	+ 7.1%	日本、欧州等で増加
	二輪車	523千台	481千台	+ 43千台	+ 8.9%	インド、中南米等で増加

※1 補足のコメントは第1四半期としての評価  
2 四半期純利益は親会社の所有者に帰属する四半期利益

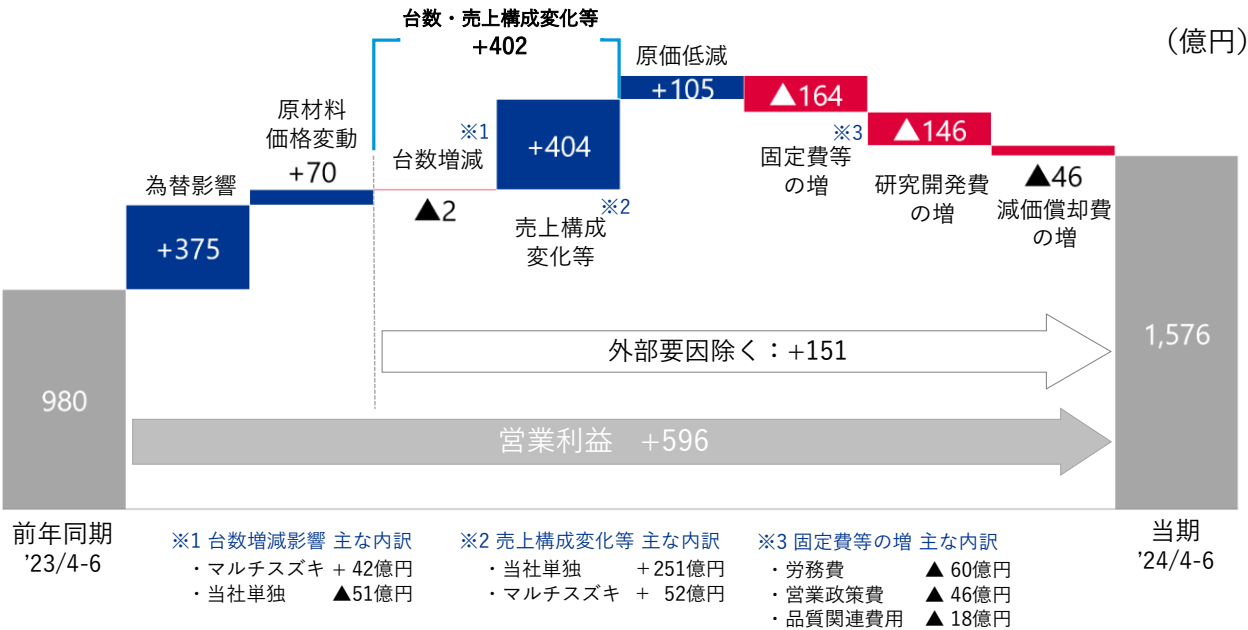
今回の決算の総括をいたします。

売上収益は、日本、欧州等で販売台数が増加したこと等により、  
1兆4,576億円と前年同期に比べ、2,533億円増加しました。

営業利益は売上構成変化の改善や為替円安効果等により、  
1,576億円と前年同期に比べ、596億円増加しました。

税引前利益は、1,895億円と前年同期に比べ、640億円増加、  
四半期純利益は、1,142億円と前年同期に比べ、419億円増加しました。

四輪車の世界販売は、日本、欧州等で増加しました。  
二輪車の世界販売は、インド、中南米等で増加しました。



© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

前年同期と比較した営業利益の増減要因は、ご覧の通りです。

外部要因としては、

- ・ 為替影響で375億円の増益、
- ・ 原材料価格変動については貴金属価格の低下等により70億円の増益となりました。

外部要因を除く項目では、増益要因として、

- ・ 国内四輪車の価格改定等により、売上構成変化等で 404億円
- ・ 原価低減により 105億円

の増益となりました。

減益要因としては、

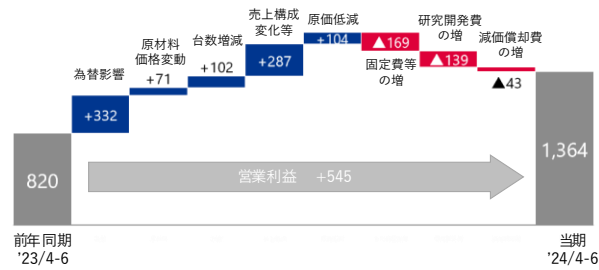
- ・ 台数増減で 2億円
- ・ 固定費等の増により 164億円
- ・ 研究開発費の増により 146億円
- ・ 減価償却費の増により 46億円

の減益となりました。

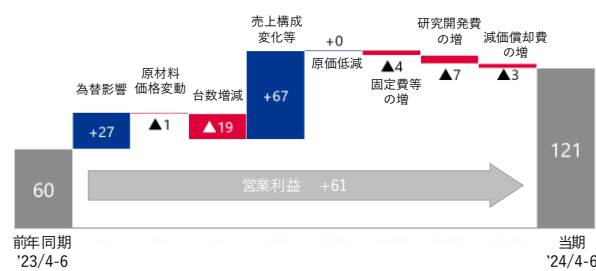
単位：億円

	'24/4-6				
	売上収益		営業利益		
		前年比		前年比	利益率
四 輪	13,200	+22%	1,364	+66%	10.3%
二 輪	1,048	+22%	121	+102%	11.5%
マリン	302	▲9%	81	▲13%	26.8%
その他	28	+10%	9	+27%	33.8%
連結 計	14,576	+21%	1,576	+61%	10.8%

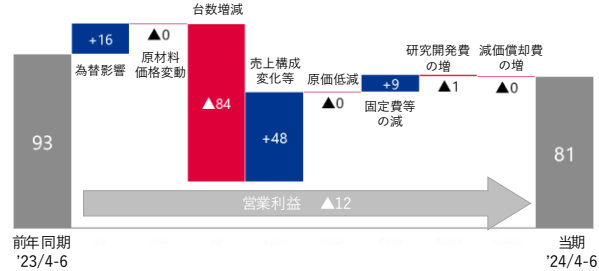
四輪事業



二輪事業



マリン事業



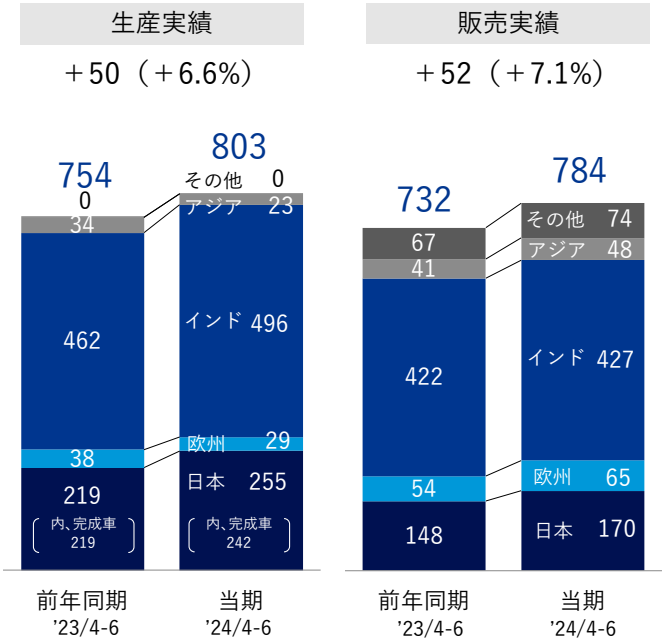
© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

次に事業別の業績についてご説明いたします。

四輪事業につきましては、  
台数増加や売上構成変化等の改善により、増収増益となりました。

二輪事業につきましては、  
新型機種の投入やインドでの価格改定等により、増収増益となりました。

マリン事業につきましては、  
北米市場の減速に伴い、減収減益となりました。



● 当期の世界販売

(千台)

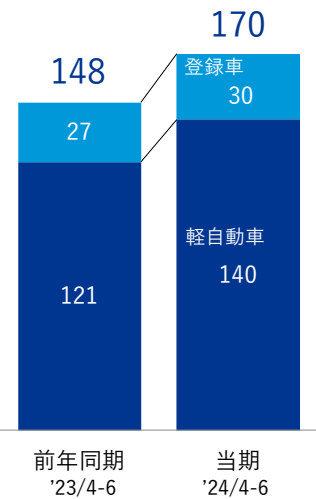
	台数	前年同期比	
世界販売	784	+52	+7.1%
日本	170	+22	+14.8%
欧州	65	+12	+22.1%
インド	427	+5	+1.2%
アジア (除インド)	48	+6	+15.2%
パキスタン	19	+11	+153.6%
インドネシア	16	▲2	▲13.2%
タイ	2	▲2	▲50.6%
その他	74	+7	+10.9%
中南米	29	+4	+16.2%
アフリカ	24	▲0	▲0.9%
中近東	13	+4	+36.7%
大洋州	7	▲0	▲2.3%

次に生産、販売の状況についてご説明いたします。

四輪車につきまして、  
日本、欧州等での堅調な需要により、  
生産・販売ともに前年を上回りました。

販売実績

+22 (+14.8%)



● 当期の国内販売

(千台)

- ・ 安定した生産と、新車効果により販売台数が増加
- ・ 新型スペーシアが好調

国内販売台数推移



● 新型「フロンクス」発売予定

- ・ 7月1日に、新型「フロンクス」の先行情報を公開
- ・ 2024年秋頃、日本国内での発売を予定

© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

日本の販売実績につきましては、安定した生産と、スペーシアやスイフトなどの新車効果により、販売台数が増加しました。

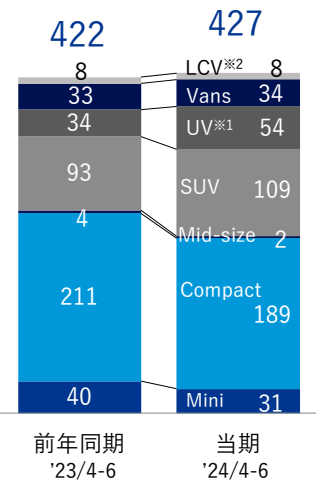
特に、新型スペーシアは5月度車名別販売台数が一位になるなど、ミックス改善に貢献しました。

また、7月1日には新型「フロンクス」のティザーサイトを公開いたしました。

発売時期は秋頃を予定しており、前評判も良く期待の商品です。引き続き、収益拡大に取り組んでまいります。

販売実績

+5 (+1.2%)



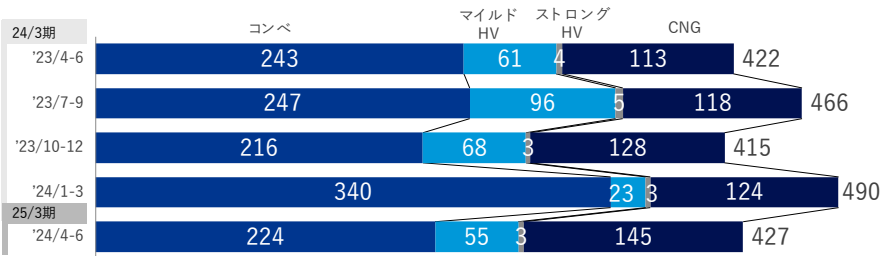
● 当期のインド販売

- ・ 当期のインド全体市場は選挙や天候不順が影響
- ・ スズキも市場在庫が増加し、生産調整を行ったため前年並み

● マルチパスウェイの取り組み

- ・ CNG車、HEVなど多様な選択肢を提供

パワートレイン別販売台数



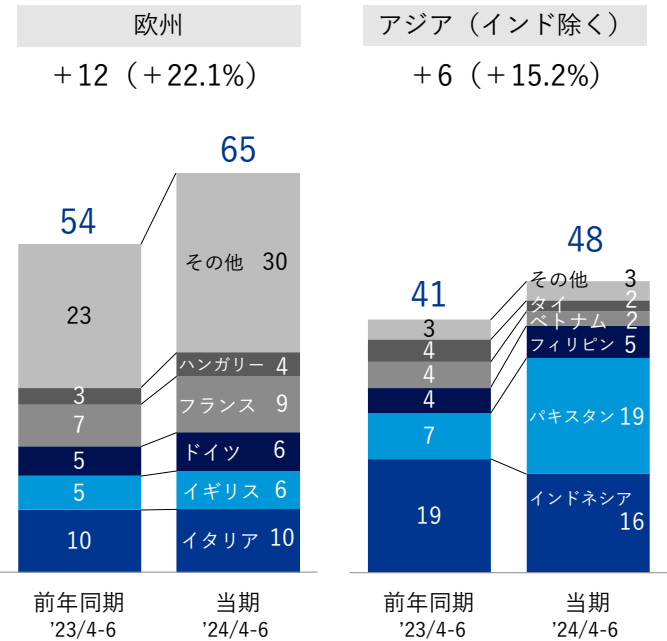
注、左側グラフは商用車(LCV)を含む卸販売実績、OEMは除く  
※1 UV=Utility Vehicles (Ertiga等) ※2 LCV=Light Commercial Vehicles

© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved.

当期のインドの販売につきましては、  
市場在庫が増加し、生産調整を行ったことで  
前年並みの販売台数となりました。

インドではカーボンニュートラルに向けて、  
HEVやCNGなど多様な選択肢を提供し、  
マルチパスウェイで取り組んでいます。

特にCNG車は、乗用全体市場においても比率が高まっており、  
スズキのインド販売におけるCNG比率は34%となりました。



● 欧州トピックス

- ・ 新型スイフトを投入  
好調な滑り出しとなっている



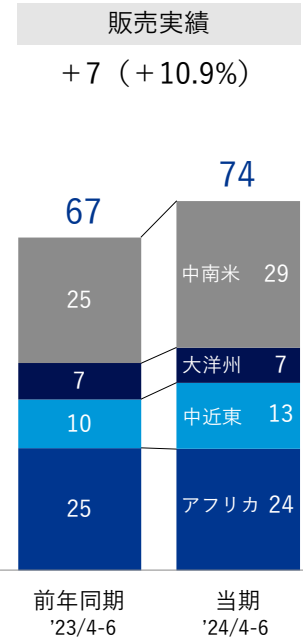
● アジアトピックス

- ・ パキスタンでは、前年同期は、  
外貨規制により輸入が困難な状況だったため、  
販売が急激に落ち込んでいた
- ・ 当期は緩和され、販売が回復

© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved. 10

続いて、欧州の販売状況です。  
新型スイフトの投入により台数は増加しました。

インド以外のアジアにつきましては、  
パキスタンにおいて、  
前年同期に外貨規制により輸入が困難な状況だったため、  
販売が急激に落ち込んでいましたが、  
現在は緩和されたことで、販売が回復しました。



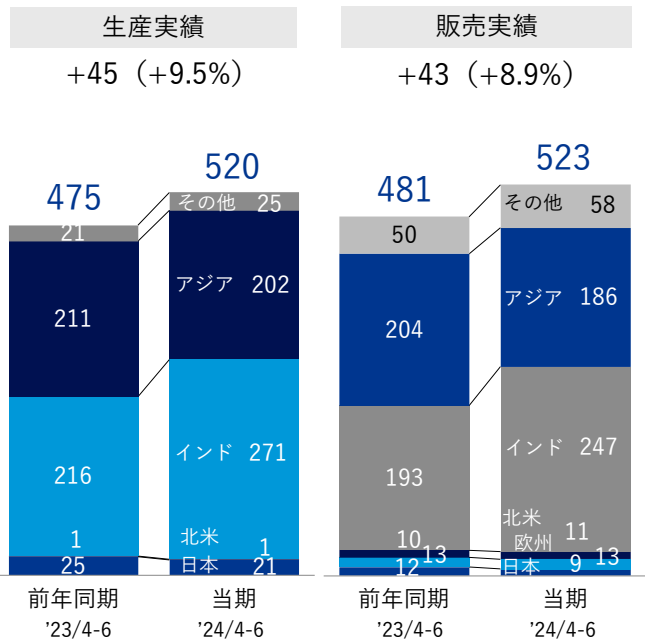
- トピックス
- (千台)
- ・ 中南米、中近東で販売台数が増加
  - ・ 南アフリカは販売網の拡充により好調が継続
  - ・ アフリカ全体では主力のエジプト・エチオピアが外貨不足のため、完成車の輸入を停止しており販売に影響

当期の販売

	台数	前年同期比	
アフリカ	24	▲0	▲0.9%
南アフリカ	13	+2	+14.3%
アンゴラ	2	▲1	▲37.6%
コートジボワール	2	▲1	▲24.2%
中近東	13	+4	+36.7%
サウジアラビア	7	+3	+55.6%
大洋州	7	▲0	▲2.3%
中南米	29	+4	+16.2%
メキシコ	11	+2	+28.5%
チリ	5	+1	+21.4%

その他地域の販売につきましては、  
中南米、中近東で販売台数が増加しました。

南アフリカでは、販売網の拡充等により、末端販売が増加しました。  
アフリカ全体としては、一部の国で外貨規制により輸入が出来ず、  
販売が減少しました。



- (千台)
- 鈴鹿8時間耐久ロードレースに参戦
- ・ 7月19日～21日、鈴鹿8時間耐久ロードレースに「チームスズキCNチャレンジ」として、社内で選抜したメンバーを中心に構成されたチーム体制で参戦し、8位で完走
  - ・ スズキは環境性能技術の開発加速を目的として、40%バイオ由来のFIM（国際モーターサイクリズム連盟）公認サステナブル燃料をはじめ、タイヤやオイルなどにサステナブルアイテムを採用



© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved. 12

二輪事業につきましては、中国およびアセアン市場では減速がみられましたが、インドでは、スクーターの伸びが堅調で、全体市場以上の伸長率となったことにより、全体では、生産・販売ともに前年を上回りました。

トピックスとして、鈴鹿8時間耐久ロードレースに「チームスズキCNチャレンジ」として、社内で選抜したメンバーを中心に構成されたチーム体制で参戦し、8位で完走いたしました。

今回の参戦は、環境性能技術の開発加速を目的として、サステナブル燃料を使用いたしました。参戦で得られた貴重なデータは、今後の製品へ技術フィードバックしてまいります。

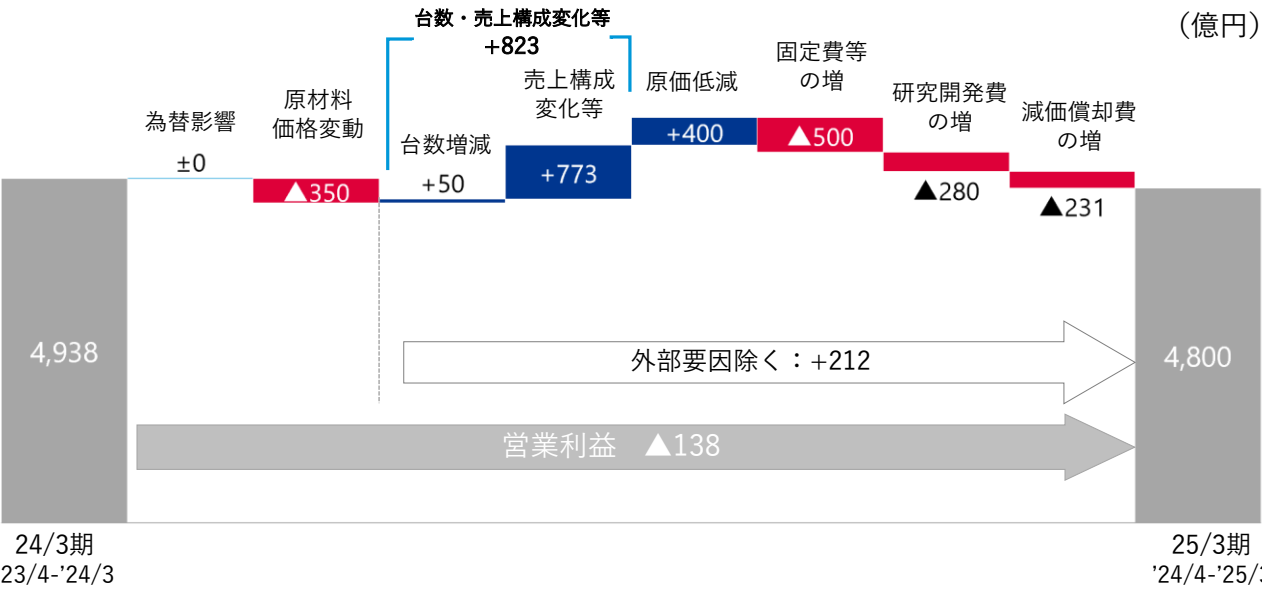
(億円)		当期 ( '24/4-'25/3)	前期 ( '23/4-'24/3)	増 減		補足	参考 <日本基準> 前期 ( '23/4-'24/3)	
					増減率			
連結 業績	売上収益	56,000	53,575	+ 2,425	+ 4.5%	4期連続増収	売上高	53,743
	営業利益 (利益率)	4,800 (8.6%)	4,938 (9.2%)	▲138	▲2.8%	3期振り減益		4,656 (8.7%)
	税引前利益 (利益率)	5,500 (9.8%)	5,917 (11.0%)	▲417	▲7.0%	4期振り減益	経常利益	4,885 (9.1%)
	当期純利益※ (利益率)	3,100 (5.5%)	3,170 (5.9%)	▲70	▲2.2%	5期振り減益		2,677 (5.0%)
為替 レート	米ドル	145円	145円	+ 0円	+ 0.3%			145円
	ユーロ	157円	157円	+ 0円	+ 0.2%			157円
	インドルピー	1.75円	1.76円	▲0.01円	▲0.6%			1.76円
世界 販売	四輪車	3,254千台	3,168千台	+ 86千台	+ 2.7%			3,168千台
	二輪車	1,892千台	1,915千台	▲23千台	▲1.2%			1,915千台

※ 当期純利益は親会社の所有者に帰属する当期利益

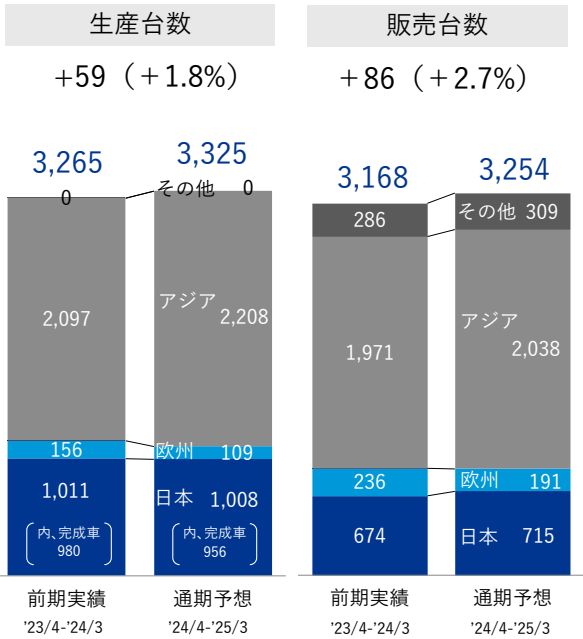
通期業績予想についてご説明いたします。

売上収益は5兆6,000億円、  
営業利益は4,800億円を見込んでおり、  
為替動向の変化など、いまだ不透明な経営環境が継続しているため、  
収益、利益、為替レート、台数とも前回発表を据置きといたしました。

四輪車の販売につきましては、前期から+86千台増加、  
二輪車の販売につきましては、前期から▲23千台減少する見込みです。



前期に対する 営業利益の増減要因の内訳は、ご覧の通りとなります。



●生産台数 (千台)

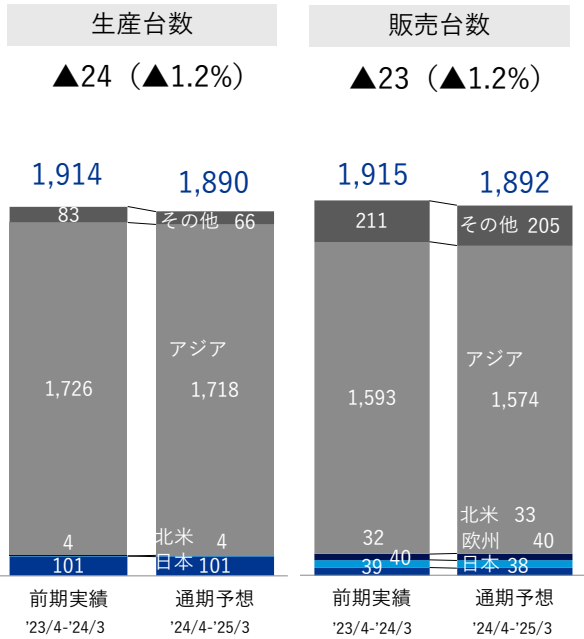
	通期予想	前期実績	増減	増減率
世界生産	3,325	3,265	+59	+1.8%
日本	1,008	1,011	▲4	▲0.4%
欧州	109	156	▲48	▲30.4%
アジア	2,208	2,097	+111	+5.3%
その他	0	0	▲0	▲23.7%

●販売台数

世界販売	3,254	3,168	+86	+2.7%
日本	715	674	+41	+6.0%
欧州	191	236	▲45	▲19.1%
アジア	2,038	1,971	+67	+3.4%
インドは市場成長率（前年比約+2.0%）を上回る見通し				
その他	309	286	+23	+8.2%

四輪車の生産台数につきましては、  
5万9千台増加する見込みです。

販売台数につきましては、  
世界全体で8万6千台増加する見込みです。



●生産台数 (千台)

	通期予想	前期実績	増減	増減率
世界生産	1,890	1,914	▲24	▲1.2%
日本	101	101	+0	+0.2%
北米	4	4	+1	+15.5%
アジア	1,718	1,726	▲8	▲0.5%
その他	66	83	▲16	▲19.8%

●販売台数

世界販売	1,892	1,915	▲23	▲1.2%
日本	38	39	▲0	▲1.2%
欧州	40	40	+1	+1.6%
北米	33	32	+1	+3.1%
アジア	1,574	1,593	▲18	▲1.2%
その他	205	211	▲6	▲2.8%

二輪車の生産台数につきましては、2万4千台の減少、販売台数につきましては、世界全体で2万3千台減少する見込みです。

10年先を見据えた技術戦略を発表

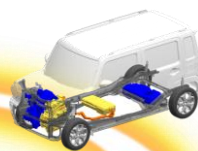
①軽くて安全な車体

- ・ HEARTECTの進化
- ・ 軽量へのさらなる挑戦



②バッテリーリッチな BEV/HEV

- 「小・少・軽・短・美」を  
体現する適所適材な電動車



エネルギー極少化  
技術戦略



⑤リサイクルしやすい  
易分解設計

- ・ 資源の総使用量の抑制
- ・ サーキュラーエコノミー  
(循環型経済) の実現



④SDVライト

- 過剰にせず  
「ちょうどいい」 装備

③効率良いICE、CNF技術

- ・ 高効率エンジン技術
- ・ カーボンニュートラル燃料への対応



© Suzuki Motor Corporation, 2024. All rights reserved. 17

7月17日に技術戦略説明会を実施いたしました。

エネルギー極小化に向けた技術戦略を立て、

- ① 軽くて安全な車体
- ② バッテリーリッチなBEV/HEV
- ③ 効率良いICE、CNF技術
- ④ SDVライト
- ⑤ リサイクルしやすい易分解設計

の5項目について説明させていただきました。

今後、説明会でいただいたご意見を反映し、  
個々の技術のアップデートを行ってまいります。

現在、2025年3月期末までに新中期計画公表に向けて  
準備を進めております。

以上で、2025年3月期第1四半期決算の説明を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

# 補足資料

2025年3月期 第1四半期決算 | 売上収益の状況



(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合 計			増減内訳	
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	為替影響	台数増減
国内計	3,470	2,822	+ 648	47	55	▲7	8	10	▲1	28	25	+ 2	3,553	2,912	+ 642		+ 316
自 社	3,189	2,582	+ 607	47	55	▲7	8	10	▲1	28	25	+ 2	3,272	2,671	+ 601		
O E M	281	240	+ 41										281	240	+ 41		
海外計	9,730	8,004	+ 1,726	1,000	805	+ 196	293	323	▲30				11,023	9,132	+ 1,891	+ 1,170	+ 453
欧 州	1,661	1,349	+ 313	152	148	+ 4	55	61	▲6				1,868	1,558	+ 311	+ 213	▲25
北 米	1	1	▲0	115	114	+ 1	157	183	▲26				273	299	▲26	+ 34	▲17
アジア	6,432	5,362	+ 1,070	540	401	+ 139	36	31	+ 5				7,009	5,795	+ 1,214	+ 717	+ 383
インド*	5,636	4,711	+ 925	355	245	+ 109	3	1	+ 1				5,993	4,957	+ 1,036	+ 635	+ 300
// 以外	796	651	+ 144	186	156	+ 30	33	30	+ 4				1,015	838	+ 178	+ 82	+ 84
その他	1,635	1,291	+ 344	193	141	+ 52	45	48	▲3				1,873	1,480	+ 393	+ 206	+ 112
総合計	13,200	10,826	+ 2,374	1,048	859	+ 188	302	333	▲31	28	25	+ 2	14,576	12,044	+ 2,533	+ 1,170	+ 769
内、為替換算影響			+ 1,030				+ 109				+ 31				+ 1,170		

注. 当期…2024年4～6月期、前期…2023年4～6月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

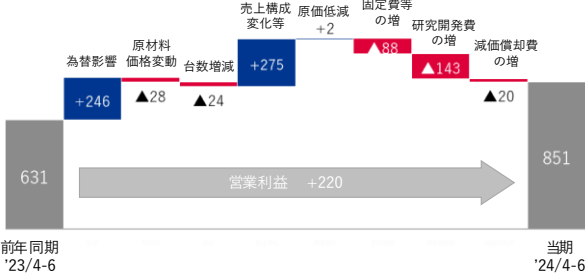
2025年3月期 第1四半期決算 | 所在地別業績、営業利益増減要因



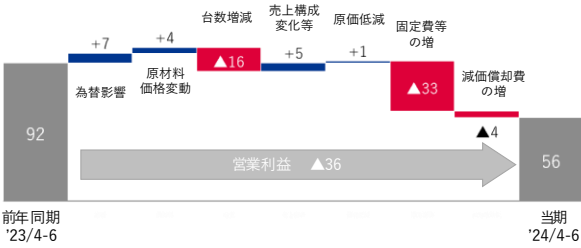
単位：億円

	'24/4-6				
	売上収益		営業利益		
		前年比		前年比	利益率
日本	7,200	+12%	851	+35%	11.8%
欧州	2,266	+7%	56	▲39%	2.5%
アジア	7,872	+20%	738	+73%	9.4%
その他	1,161	+17%	29	▲45%	2.5%
連結計	14,576	+21%	1,576	+61%	10.8%

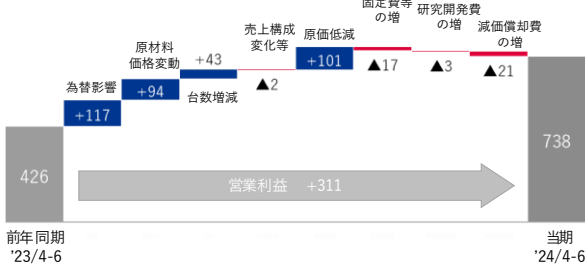
日本



欧州



アジア



		ルピー建 (億ルピー) ※1			円換算額 (億円)		
		当第1四半期	前年同期※4	増減	当第1四半期	前年同期	増減
連結業績	売上収益	3,388	3,085	+ 303	6,369	5,182	+ 1,186
	営業利益※2 (利益率)	377 (11.1%)	221 (7.2%)	+ 157	710 (11.1%)	371 (7.2%)	+ 339
	税引前利益 (利益率)	484 (14.3%)	327 (10.6%)	+ 157	909 (14.3%)	549 (10.6%)	+ 360
	税引後利益 (利益率)	376 (11.1%)	254 (8.2%)	+ 122	707 (11.1%)	427 (8.2%)	+ 280
	為替レート	1.88円	1.68円	+ 0.20円			
卸販売	国内販売※3	451千台	435千台	+ 16千台			
	輸出※3	71千台	63千台	+ 7千台			
	合計	522千台	498千台	+ 24千台			

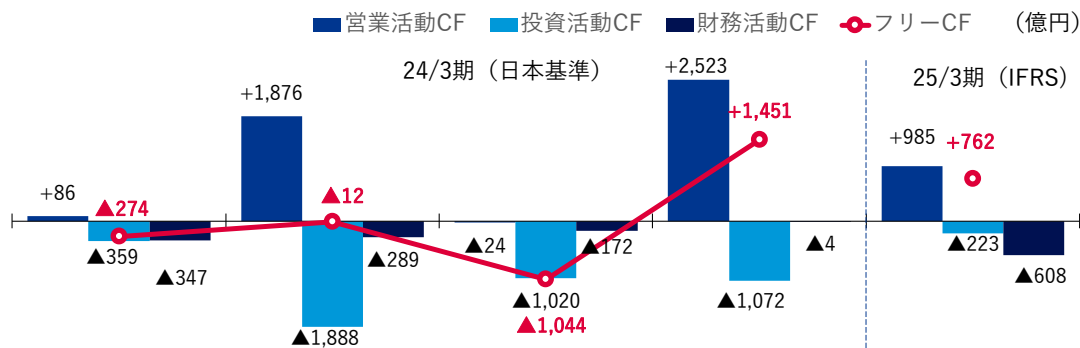
※1 ルピー建は、7月31日付でマルチ・スズキ・インディア社が発表した連結業績値

※2 営業利益は次式により算出 営業利益=Sales of product + Other operating revenues - Total Expenses + Finance costs

※3 国内販売および輸出はOEMを含む

※4 前年同期の業績値は、当期との比較のため、前期期初よりSMGを連結した前提で再計算した数値

注. マルチ・スズキ・インディア社はIndAS (インド版IFRS) に基づき会計処理をしており、本数値はあくまでも参考値



	24/3期 (日本基準)				25/3期 (IFRS)
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
フリーCF	▲274	▲12	▲1,044	+1,451	+762
財務CF	▲347	▲289	▲172	▲4	▲608
(内、配当金支払額※1)	(▲245)	(▲203)	(▲268)	(▲2)	(▲324)
キャッシュ残高	8,499	8,230	6,886	8,536	8,752
有利子負債	7,640	7,672	7,790	7,862	7,725
ネットキャッシュ	859	558	▲904	675	1,027
(月商比※2)	(0.2ヵ月)	(0.1ヵ月)	(▲0.2ヵ月)	(0.2ヵ月)	(0.2ヵ月)

※1 非支配株主への配当金の支払額を含む。 ※2 月商比は、各期の通期売上高の平均月商をもとに算出

	当期 ('24/4-'24/6)	前年同期 ('23/4-'23/6)	増 減
設備投資	831億円	589億円	+ 242億円
当社単独	250億円	154億円	+ 96億円
子会社	581億円	435億円	+ 146億円
(内、インド)	(450億円)	(317億円)	(+133億円)
減価償却費	475億円	429億円	+ 46億円
研究開発費	557億円	411億円	+ 146億円

※ インド：マルチ・スズキ社（グジャラートを含む）、SMIPL社、TDSG社、SRDI社、Sデジタル 5社の合計  
※ リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績に含まない  
※ 報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載

	当第1四半期末 ('24/6末)	前年同期末		前期末	
		('23/6末)	増 減	('24/3末)	増 減
有利子負債残高	7,725億円	7,637億円	+88億円	7,859億円	▲134億円
連結子会社数	121社	121社	± 0社	120社	+1社
持分法適用関連会社数	34社	34社	± 0社	33社	+1社
従業員数	73,414人	71,459人	+1,955人	72,372人	+1,042人

※ リース負債は上記の実績に含まない

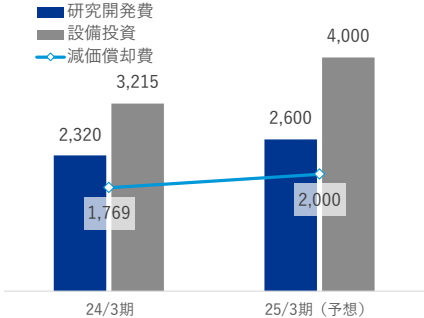
	当期 ('24/4-6)	前年同期 ('23/4-6)	前年同期比 増減		営業利益 為替影響	
					感応度 <sup>※2</sup>	影響額
インドルピー	1.88円	1.68円	+ 0.20円	+11.9%	+ 10億円	+ 124億円
ユーロ	168円	150円	+ 18円	+12.2%	+ 7億円	+ 81億円
米ドル	156円	137円	+ 18円	+13.4%	+ 3億円	+ 38億円
メキシコペソ	9.06円	7.79円	+ 1.27円	+16.3%	+ 2億円	+ 36億円
南アフリカランド	8.39円	7.36円	+ 1.03円	+14.0%	+ 1億円	+ 20億円
オーストラリアドル	103円	92円	+ 11円	+11.8%	+ 2億円	+ 19億円
パキスタンルピー	0.56円	0.49円	+ 0.07円	+14.3%	+ 1億円	+ 15億円
その他 <sup>※1</sup>	—	—	—	—	+ 3億円	+ 44億円
営業利益為替影響額 合計					+ 29億円	+ 375億円

※1 その他…影響額+44億円のうち、ポンド+13億円、ズロチ+13億円 ほか  
※2 感応度…各通貨のレートが前年同期のレートから 1% 円安方向に動いた際の営業利益影響額

設備投資・減価償却費・研究開発費				為替レート						
(億円)	通期予想	前期実績	増減		通期 予想	前期 実績	前期実績比			
							増減		営業利益 為替影響 感応度※2 影響額	
設備投資	4,000	3,215	+785	メキシコペソ	8.55円	8.35円	+0.20円	+2.4%	+9億円	+22億円
減価償却費	2,000	1,769	+231	コロンビアペソ	0.037円	0.036円	+0.001円	+3.4%	+2億円	+8億円
研究開発費	2,600	2,320	+280	ポンド	184円	182円	+2円	+1.3%	+5億円	+6億円
				米ドル	145円	145円	+0円	+0.3%	+14億円	+4億円
				ユーロ	157円	157円	+0円	+0.2%	+22億円	+3億円
				インドネシアルピア	0.0092円	0.0095円	▲0.0003円	▲3.2%	+3億円	▲10億円
				インドルピー	1.75円	1.76円	▲0.01円	▲0.6%	+38億円	▲22億円
				その他※1	—	—	—	—	+22億円	▲13億円
営業利益為替影響額 合計									+115億円	±0億円

■研究開発費  
■設備投資  
●減価償却費

項目	前期実績	通期予想
研究開発費	2,320	2,600
設備投資	3,215	4,000
減価償却費	1,769	2,000



※ 設備投資の前期実績はIFRS未集計のため日本基準の数値を記載  
※ リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績・予想に含まない  
※ 報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載

※1 その他…影響額▲13億円のうち、タイバーツ▲2億円 ほか  
※2 感応度…各通貨のレートが前期実績から 1% 円安方向に動いた際の営業利益影響額

項目	日本基準	IFRS	内容
有形固定資産の償却方法	定率償却	定額償却	移行日時点に保有する資産について、取得時まで遡って変更を遡及適用
研究開発費、ソフトウェア取得費の資産化	発生時に費用計上	資産計上後に償却	機種開発分やソフトウェア取得費が対象
一部の金融商品の評価差額	売却時に一括で損益計上	四半期ごとに損益計上	マルチスズキ保有の投資信託の評価差額



2025年3月期 第1四半期決算説明会

2024年8月6日  
スズキ株式会社

(参考) 裏表紙画像：新型「スペース ギア」

- ・アウトドアライフに欠かせない「アクティブ軽ハイトワゴン」をコンセプトに開発
- ・昨年、フルモデルチェンジしたスペース・スペース カスタムに採用した使い勝手のよい装備に加え、アウトドアライフに寄り添う「スペース ギア」専用のデザイン・装備を採用



#### 将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おき下さい。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動などが含まれます。